

# 夏播き飼料用トウモロコシのツマジロクサヨトウに対する保全的生物的防除技術

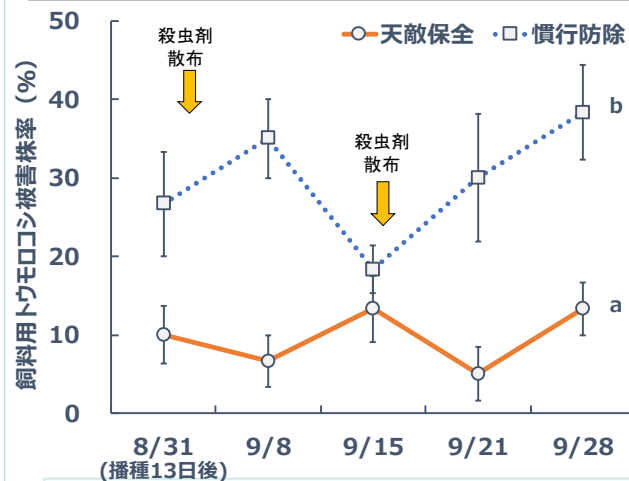
圃場の側縁にソバを植栽した植生管理技術と選択的殺虫剤(BT剤)を活用することで、ツマジロクサヨトウの被害が軽減

## 背景・目的

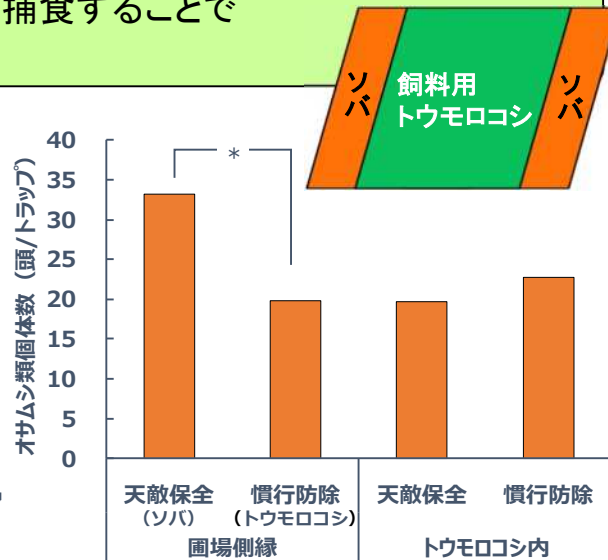
- ・飼料用トウモロコシの国内自給率向上のために、ツマジロクサヨトウは阻害要因
- ・生育初期の被害は、その後の生育遅延及び減収につながる可能性
- ・ツマジロクサヨトウの発生量が増加し、被害が顕著となる夏播き飼料用トウモロコシにおける防除対策技術の確立が課題
- ・殺虫剤の抵抗性発達等を考慮し、土着天敵相の解明とそれらを保護・活用する保全的生物的防除の効果を検証

## 成果の内容

- ・飼料用トウモロコシ圃場の側縁にソバを播種した植生管理技術とBT剤を活用した保全的生物的防除で、ツマジロクサヨトウの被害が大幅に軽減
- ・ソバがオサムシ類等の土着天敵の隠れ家として機能し、個体数を高く維持
- ・土着天敵群集がツマジロクサヨトウを捕食することで密度抑制に複合的に関与



夏播き飼料用トウモロコシの被害株率(令和4年:多発生)



オサムシ類の個体数(令和4年)

注1)天敵保全区:植生管理あり、デルフィン顆粒水和剤(BT剤)  
慣行防除区:植生管理なし、パダンSG水溶剤  
2)異文字間、\*には有意差あり

## 期待される効果

土着天敵等の活用による  
持続可能な害虫管理



ツマジロクサヨトウ発生初期密度の抑制

飼料用トウモロコシの安定生産  
化学農薬使用量の削減

○普及対象・範囲  
飼料用トウモロコシ産地(畜産技術員)

鹿児島県農業開発総合センター  
生産環境部病理昆虫研究室  
共同研究機関:宮崎大学

(イノベーション創出強化研究推進事業:02027C)